

連載：原点

初任者として

松戸六実高等学校 中下 悦実

4月から本校に着任して早くも半年が経ちました。1学期を振り返ってみるとあっという間ながらも生徒一人ひとりを見ようと心掛けた期間でした。環境が大きく変わったこともあり、この半年間は今までの講師生活とは全く違うものでした。

私は大学を卒業して3年間、講師として県内の高校で勤務をし、たくさんの出会いに恵まれました。私が教員を志したのは、中学の時に強い信念を持った先生方に会ったのがきっかけで、自分もそのように生徒を導いていけるような人物になりたいと思ったからです。数学はもともと苦手でしたが、生徒の気持ちになって考えることができると思い、数学の教員を志しました。講師をしていた3年間は先輩の先生方の授業を見せていただいたり、ご指導いただいたり、数学を深く味わう楽しさを感じることができた期間となりました。中でも授業は生徒の反応を直接見ることができ、机上の勉強だけでは得ることのできない貴重な時間となりました。

今年度は1年生に数学を教えています。高校の数学への不安を少しでも取り除き、考えること自体が楽しいと思える授業を日々心掛けています。昨年まで勤務していた学校では少人数クラスで展開していたこともあり、発問を多くするようにしていましたが、今の学校でもそれを意識して授業をしています。その際、なるべく一言で答えが出るような発問で次々に指名するなど、全員が授業に参加しているという自覚を持ちながら取り組むような環境を作ることが目標です。問題演習では黒板で答え合わせをする前に生徒同士で解答を共有できる時間をとり、ただ答え合わせをするのではなくどのように解答したか言葉で説明する力をつけられるよう、互いのコミュニケーションを大事にしています。しかし、解答する時間に差が生じるときは雑談になってしまうこともあり、メリハリをつけることが難しいと感じることも多々あります。注目させるタイミングなど、その時々に応じた授業展開を日々模索しています。

講師の時は1年間という期限のある中で生徒と関わってきましたが、今年からは生徒の高校3年間を通してみることができるので、その実態に合わせた指導や、見通しを持った指導をすることが楽しみでもあり、より一層の責任を感じるどころです。授業や部活動を通して今自分ができること、生徒のために一生懸命になれることを大切に、生徒に影響を与える存在でありたいです。これから教員として過ごす日々や経験はたくさんあると思いますが、初心を忘れず教員として生徒に寄り添い、自分自身が常に目標を持ちながら過ごしていきたいです。未熟ながら初任者として真摯に取り組み、松戸六実高校での日々を学びの多いものとして精進していきたいと思っています。